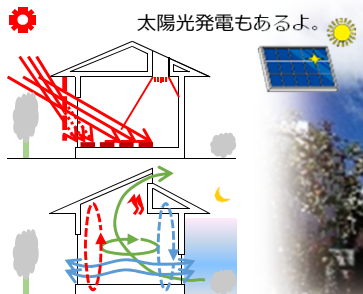


日本で発電される電気は、ほとんどが再生可能エネルギー由来のもの

リニアが通った飯田にはスマートライフシティっていうエコなまちがあるんだって



我が家は飯田版ZEH
(ネット・ゼロ・エネルギーハウス)

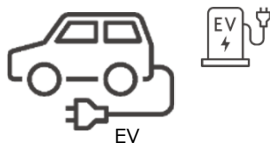


冬は薪ストーブでホカホカ
カーボンニュートラルにも
貢献しています。



もちろん、省エネにも取り組んでいます。
使っているエネルギーも全部「見えて」ます。

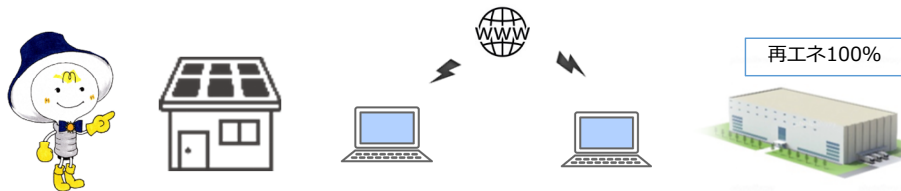
自動車は電気自動車。
東京だって往復できるんだ。



でも、できる限り公共交通機関も使います。
近いところは自転車で行きます。



テレワークで家で仕事することも多いよ。
会社は、再エネ100%を実現してるんだって。



飯田市地球温暖化対策実行計画（案）（概要版）

— 第3次 環境モデル都市行動計画（案）（概要版） —

リニア時代を視野に、気候変動への対策に多様な主体の協働により取り組み、持続可能な地域づくりを目指す。

長期目標

2050年の**二酸化炭素排出実質ゼロ**を目指し、新たな発想と協働により行動を起こしていく。

中期目標

2005年との対比で、2030年に地域全体の二酸化炭素排出量の50パーセント削減を目指す。

短期目標

本計画期間の4か年（2024年度末）までに、2005年度との対比で地域全体の二酸化炭素排出量の35.2パーセント削減を目指す。

社会経済活動による人為的な二酸化炭素の排出→地球温暖化→気候変動→異常気象→自然災害をはじめとする様々な生活への悪影響が発生

〈実質ゼロとは〉

・森林などの植物が吸収する量、地中貯留や再利用するために回収する量しか人為的な二酸化炭素は排出しないこと。

〈2050年二酸化炭素排出実質ゼロが意味するもの〉

目標 地球の気温が3℃上昇すると人類が地球上に住める環境を失うとされ、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5℃以内に抑える努力、すなわち二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることが、全世界共通の目標となった。

転換 自然災害などのリスクを招く化石燃料依存の生活様式や社会経済システムを覚悟をもって転換する。

好機 従来の生活様式や社会経済システムを環境視点で新しいものへと変えていく過程に、今まで以上の「快適さ」や「成長の種」を見いだす。

計画期間 2021年度～2024年度

飯田市 環境モデル都市推進課

環境文化都市 ～2050年、飯田は「日本一住みたいまち」になる～ ゼロカーボンシティ飯田への挑戦

世の中の動き、市民・事業者の取組 

エネルギー転換部門 CO2排出量大幅削減

電源構成における化石燃料依存度が大幅に下がり、CO2排出の4割近くを占めていたエネルギー転換部門のCO2削減が飛躍的に進む。

化石燃料から
再生可能エネルギーへ。



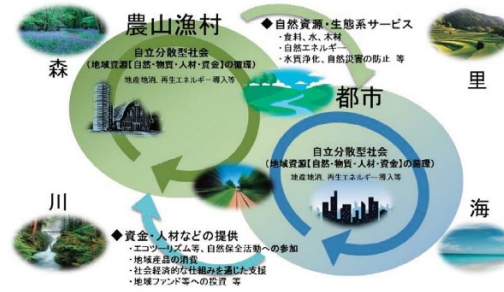
次世代自動車の時代の到来



電気自動車（EV）、燃料電池車（FCV）を中心とした次世代自動車が一般的に普及する時代へ。

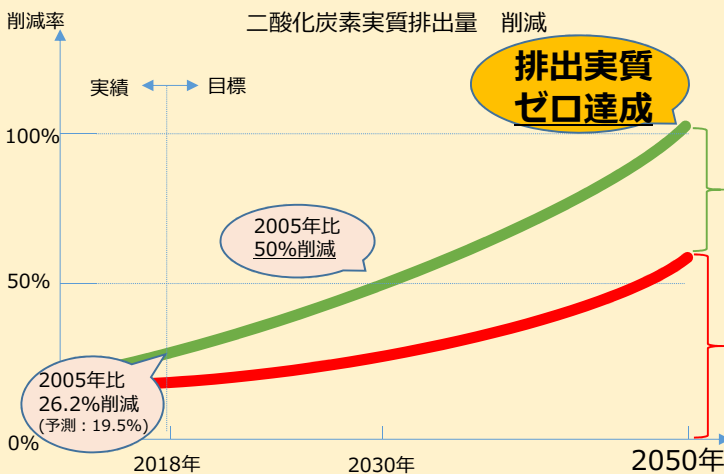
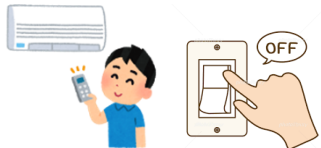
運輸部門のCO2排出が飛躍的に進む。

地球環境への配慮が当たり前のまち



<へらす>

- エネルギーの効率的な利用促進のため、省エネ機器の普及啓発
- 省エネルギー診断の普及
- 事業所向け省エネセミナーによる意識啓発
- 多様な主体との協働による地域全体での環境改善活動の普及推進
- 地域版環境マネジメントシステムなどで培ってきたネットワークを活かした省エネの取組の深化、拡大



世の中の動き
市民・事業者の取組
+
地球温暖化対策
実行計画（第3
次環境モデル都
市行動計画）に
よる具体的取組

<学び・実践>



- 生涯にわたる環境学習
- 幼少期からの環境学習
- 環境人材育成と人材のネットワークづくり
- 学習から実践への取組 <プラットフォーム> 構築推進
- 環境学習の情報発信 (WEB、SNS等)

<かえる>

- エシカル消費の実践に関する普及啓発
- 次世代自動車への乗換促進
- 次世代自動車普及に向けたインフラ整備の在り方検討
- 公共交通機関利用の推進
- 自転車利用の推進
- ウォーキングの推進
- エネルギーの見える化
- 飯田版ZEH制度の構築

HEMS



自転車



- デマンドコントロールの推進
- テレワーク、リモートワークの推進

<つくる>

再生可能エネルギー機器を導入し、自ら使うエネルギーを創出



- 太陽光発電の普及拡大
- 太陽熱利用の普及拡大
- 木質バイオマス利用の普及拡大
- 小水力発電の支援

<つかう>

「地域産」再生可能エネルギーの活用促進
～エネルギーの域産域消～

グリッド内での
エネルギーマネジメント



○レジリエントなスマートグリッド構築

- FIT切れ電源の有効活用
- 再生可能エネルギーの自家消費推進
- V2H導入など、蓄電池の有効活用
- ESG金融の地域導入に向けた研究
- 木質バイオマスエネルギーの流通体制構築
- 将来的な共生を見据えた都市部との交流

「地球温暖化対策実行計画（第3次環境モデル都市行動計画）」の具体的取組